

## 岐阜県立岐阜工業高等学校

学校長 米澤 信雄

学校住所 岐阜県羽島郡笠松町常盤町1700 電話058-387-4141

---

1 会の名称 学校評議委員の会議 学校関係者評価の会議

2 会の構成 委員 恩田 秀比良 株式会社オンダ製作所 専務  
木村 眞弓 地域住民代表  
小島 健児 育友会会長  
杉山 広子 地域住民代表  
藤吉 浩一 名古屋鉄道株式会社 笠松駅長

（委員名は五十音順）

学校側	米澤 信雄 校長	森 保 教務主任
	林 忠弘 副校長	宮浦 英夫 生徒指導主事
	川合 宏海 事務部長	本田 悟志 進路指導主事
	高木 喜弘 教頭	加藤 嘉彦 工業部長
	若松 卓郎 教頭	

3 会の目的 学校運営等について学校外の有識者等から幅広く意見を聞き、本校教育の改善・充実に資するとともに、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを目指す。

4 会の開催 平成25年2月20日（水） 16:00～17:00 岐阜工業高等学校 校長室

## 5 会の概要

### 主テーマ 工業高校に期待するもの

#### 生徒研究発表会の参観

各学科3年生の代表が課題研究などで取り組んできた成果を全校生徒の前で発表する生徒研究発表会を参観していただいた。生徒の熱の入った発表に耳を傾けていただいた。発表会には、企業や大学、専門学校から40名の参観をいただいた。



#### 感想 (合評会より抜粋)

- ・各学科、特色のあるテーマであった。プレゼンは高校生らしいもので改良の余地はあるが内容は良く工夫されておりレベルは高かった。
- ・地域貢献についての発表で、技術は人のためにあるのだという観点が良かった。
- ・ドキュメンタリー風のものもあり楽しく見られた。設備システムの机をつくる課程において、小学生とコミュニケーションを取ることで、よりよい製品になっていく。自分の尺度だけではよい製品に仕上がらないというこである。プレゼンは全体に良いできであると思うが、あまり色々なものを入れるとかえって分からなくなる。
- ・「ユネスコ」と化学研究部と協力して東北の被災地支援活動を行った。どれも真剣味のある発表と感じた。
- ・プロジェクションの印象が良かった。今の時代はコンピュータを使い、頭で考えることが多いがそれ以外で実際に物を手で作ることも大切なことだと改めて感じた。
- ・昨年度に引きつづいて見せていただいた。プレゼンは一段とレベルアップしたが話し方は練習不足のためか、原稿の棒読みや、映像と説明が合わない場面がみられた。しっかり、読み込むとよい。建設工学科の発表で、現場でコミュニケーションを取りながら進めることは実際にも多く見られるのでコミュニケーション能力を育ててほしい。



#### 学校の現状について 報告

- ・各分掌の自己評価をもとに、学校関係者に本校を評価していただき、学校改善に繋げていきたい。
- ・いじめや体罰が今年度は話題となった。近々県がそれについての調査結果を発表するが、本校の

名前が挙がることはないと思われる。

- ・本校では本年度4月スタート時と生徒数が変わっていない。誰も進路変更をしないことは、いじめや体罰で居心地の悪い思いをしている生徒がいらないからではないかと思っている。
- ・今年度は国体への協力（トーチのデザイン等を含め）を行い無事に終えることができた。さらに本校の伝統行事の耐寒強歩大会も交通事情が厳しくなった中で事故もなく無事に終えることができた。
- ・進路に関しても厳しい就職状況の中230名の就職希望者の内229名の内定をいただいております、残り一名も来週入社試験を受ける。進学も多くの指定校をいただいている上に、センターを受けて岐阜大学にも複数名合格した。

#### 今後に期待するもの

- ・公害防止管理者に多くの合格者がでるなど、資格取得に大変頑張っている。技能検定等を含め資格取得には教える方の勉強も大切である。先生もレベルアップしていかないといけない。教員の質を上げていくことが重要である。資格を取るために教える人も教わる生徒もよく勉強し、お互いに切磋琢磨して、資格取得を目指す、その好い雰囲気周りに伝わり、さらにより高いレベルの資格にほかの人も挑戦していくようになる。
- ・多くの事に興味を持たせ、頑張らせる雰囲気を作るとともに第三者の評価に耳を傾けることも大切である。さらに、岐阜工業高校だけがレベルアップしていくのではなく、岐南工や関商工など、工業高校全体のレベルが上がることも期待している。
- ・会社に入ってから、自分で勉強していけるような習慣がついているとよい。自分で自分を磨く力を付けて欲しい。また、持続性を持たせるような指導をお願いしたい。会社での定着率がよくなることを期待している。
- ・普通高校出身で大学を出たような子は実物に触れていないので知識が不足していて、本当に基本的な事から教えていかなければならない。工業での実教育は大変実になっている。
- ・外部の力を借りることも大事だ。技能の高い人に講師として来ていただき、指導してもらおうと効果が高い。実際に手取り足取り教えるとより技能は上がる。
- ・自由な発想が大事だ。その発想ができる卵を育てて欲しい。自由な発想で製品を作り、後からコストダウンや改善をしていけばよい。

[研究会を参観して]

- ・本日の発表は良いものだった。特に電気科の発表の中で、自分だけの力だけでなく、他の学科の力が必要だというような発言があった。技術系の職人気質の人はとかく自分の殻に閉じこもりがちだが、ものづくりもいろいろな技の集積が大切なので、協調性のある工業人の育成が大切だ。
- ・何年か前の発表と今年の発表は随分変わって、とてもわかりやすかった。画像も動画とかをうまく使い興味が持てる発表だった。
- ・地域と密着してボランティアを行っている体験は生徒たちにとっては素晴らしいことだ。そのようなところで感動したことが、後々生かされていくと思う。